

第27回西日本事例発表オンライン研修会 発表概要シート

法人名	スミリンケアライフ株式会社	施設名	エレガーノ甲南
発表タイトル	「コロナフレイル」が一般棟入居者に与えた影響について ～入居者へのアンケート調査と体力測定から見てきたもの～		
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年より新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)が流行し、当施設においても外出自粛などの行動制限が行われた。COVID-19によって引き起こされたフレイルは「コロナフレイル」と呼ばれ近年注目されており、COVID-19による自粛生活が、一般棟入居者にどのような影響を及ぼしたかについて調査を行った。 		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行っている体力測定から COVID-19拡大前後の6年間の握力と5m 歩行のデータを分析。アンケート調査から自粛生活による活動量の変化を調査。 ・結果と考察から見てきた課題の改善に向けて、取り組みを開始する。 		
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年9月に、体力測定に参加された、一般棟入居者25名を対象に握力と5m 歩行のデータを収集。 ・体力測定に参加された方を対象に、アンケート調査を実施。 ・2022年の体力測定のデータと、過去5年間の平均データを用いて分析。 		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・握力については、COVID-19による影響はみられなかった。 ・5m 歩行については、COVID-19流行前の2019年に比べ、流行直後の2020年では、1.56秒の歩行速度の低下がみられたが、翌年の2021年には1.86秒の歩行速度の改善がみられた。 ・アンケート結果で約半数の入居者が「体力が低下した」「外出機会が減った」と回答していた。 ・体力や外出機会が「変わらない」と答えた方もそれぞれ48%、36%おられた。 		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19による自粛生活によって、外出・運動機会の減少や5m 歩行の歩行速度の低下など、コロナフレイルが引き起こされていたことが示唆された。 ・歩行速度に関しては、COVID-19流行翌年には改善がみられた。1つの要因として、自粛期間中であっても、施設内にて他者との交流や、アクティビティの参加により、歩行速度が早期に改善したとも考えられる。 ・アンケートで体力や外出機会が変わらないと答えた方の中には、COVID-19流行前から閉じこもり傾向がみられ、今後もフレイルの進行の恐れがあると推測される。 ・今後の課題として、閉じこもり傾向からの脱却を目指す必要性がある。まずは館内のアクティビティの参加を促し、他者との交流を図る重要性が見えてきた。早急に集団体操のリニューアルや新規アクティビティを実施することで、今までアクティビティに参加したことがない方を一定数得ることができ、他者との交流を保つために今後も継続していく必要がある。 		
アピールポイント 伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19流行前後6年間の握力と5m 歩行のデータを分析し、自粛生活が及ぼした影響について結果が得られた。 ・結果と考察から見てきた課題に対して、改善策を見出し、早期に取り組みを開始することができた。 		